

# やすらぎだより

8月号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

コラム第122号

## 「自称『国際人』」

施設長 植田 誠



確かに増えた、外国の方々。地元の観光地奈良公園は、今では日本人の方が少ないように感じる。我が国に半年間で1000万人近くの外国人観光客が来られるこのご時世、どこぞの国の『爆買い』イメージにとらわれて『おもてなし』精神が薄い私は、目の当たりにする風景にまだまだついて行けてないのかも知れない。

そんな私は、ついこの間まで偉そうにも『国際人』だと思い込んでいた。無論、英語が喋れるわけではない。外国語とは言っても韓国語を少々、否、挨拶程度なのに会得した気分ですら振る舞ってきた。7か国10数度の異国に渡った経験からか、若い職員さんには生意気にも

「海外に行けば、何か得られる」  
などと言う、わけの分からない論しを告げてきた。

数か月前、このやすらぎ園に『タイ日友好団』の方々 came。この40年間で海外からの訪園は8か国目だ。幾度と来られる韓国の方を始め異国人の見学に、利用者さんは然程驚いたような素振りも見せず

「笑顔で接すれば、人類皆わかりあえる」  
とでも言いたげに、微笑みながらいつも落ち着き払って振る舞われている。「きっと大阪万博の経験が活かされているに違いない」

勝手な決め付けをしながら自称『国際人』の私は、付け焼刃のタイ語をメモにしたため得意げに挨拶を交わし、団長と名刺を交換する。にわか仕込みの声かけにさぞや感嘆されると期待していると、流暢な日本語で一言「ウエダサン、ワタシたち『カンジ』ワカラナイ！『イングリッシュ』ネ！」

おもてなしのタイ語は吹き飛び、薄っぺらな国際人としてのプライドはもろくも崩れ去った。

後日、名刺の裏に『イングリッシュ』を書き加えることとした。正確な翻訳か否か、留学経験のある英語が達者なY介護員責任者に確認した後、『植田』と『UEDA』が記された真新しいカードは完成する。

一枚の名刺はつぶやいている、国際人への道程は遠く険しいと。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ    |
| ○在宅サービス事業所       | ○介護予防関連事業      |
| 居宅介護支援事業所        | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問介護事業           | ○天理市ひとり暮らし     |
| 訪問入浴介護事業         | 高齢者世帯等見守り事業    |
| ○短期入所生活介護事業      | ○低所得高齢者等住まい・   |
| ○在宅介護支援センター      | 生活支援モデル事業      |
| ○天理市東部地域包括支援センター |                |